

■国営木曾三川公園 河川環境楽園 自然発見館（木曾三川事業所）

■住所：岐阜県各務原市川島笠田町

■施設概要：国営木曾三川公園・河川環境楽園内にある環境学習施設であり、川の自然環境や生態が学習できるように工夫された4つの工房から成り立っている。野外フィールドとしては敷地内に人工河川である「木曾川水園」や自然河川の「新境川」が隣接する。

■発注者：木曾三川公園管理センター・指定管理者

■受託年：平成11年7月～ ■休館日：8月を除く毎月第2月曜日（休日の場合は直後の平日）、12/31～1/1

■職員人数：常勤5名



自然発見館の外観

●主な業務内容

- 学校団体の校外学習の対応／同時4クラス（160名）
- ネイチャーイベントと呼ばれる一般家族向けのプログラム提供
- 日常的な来園者への対応／年間約30万人
- 展示物の作成／企画展の実施（年3回）
- 環境学習プログラムの企画・運営
- 自然環境調査
- 環境教育ボランティア講座の企画・運営

●業務経歴

- 平成10年度までに委託されていたプログラム開発に関する業務に引き続き、平成11年からは公開コンペの結果、「国営木曾三川公園環境教育プログラム運営補助業務」を受託し、平成14年度からはNPO法人生態教育センターが受託し業務を行っている。
- 自然発見館で展開する常設の有料プログラムは、クラフト系17種、観察系10種、ワークショップ系13種、合計40種のプログラムを準備し、対象は幼稚園（保育園）から高校生・大人まで幅広くカバーし、特に小学校のカリキュラムに対応したメニューに力を入れている。

●業務実績：平成26年度

- 環境教育プログラムを1,081回実施し、参加人数は28,546名という多人数の受入れが特徴。その内訳は、団体利用は学校団体は240クラス7,746名、一般の団体は109回2,856名、合計10,602名の参加者になった。また、一般向けイベント型プログラムの参加者は、471回12,029名、無料のネイチャーガイドは258.5回5,894名の参加者であった。
- 平成26年度は、とくに「幼児」のためのプログラムを開発・広報し、安全安心の国営公園というフィールドで自然を楽しむ入口の役割として多数実践し、好評を得ている。
- 学校団体は、小学校低学年～中学年が中心である。教育のプロである先生によるプログラムの評価では78.9%が最高評価である「非常に満足」と、高い評価を得ている。
- 自然発見館の環境教育サポートボランティアである「EE ネット発見館」は、約20名が登録し、イベント運営やプログラムサポートなどの活動をし、そのスキルアップの研修講座を当団体が担当し年2回実施することでボランティア育成に努めた。
- 木曾三川事業として、地元のみならず近隣の市町村へ出張講座として出向いたり、地元各務原市内の公園のプログラム運営もお手伝いし活動を拡げている。



幼児プログラムの様子

●施設の特徴

東海地方で有数の集客数（2014年度東海3県集客施設年間ランキング4位、年間448万人）がある環境共生型テーマパーク「河川環境楽園」。自然発見館はその河川環境楽園の中にある。平成11年7月にオープンし、都市公園として身近な動植物に直接触れあう中で、専門の知識を持った指導員と楽しみながら学ぶことができるプログラムが多数用意されている。

特徴として、都市公園でありながら河川を中心とした多様なフィールドを持ち、木曽川や新境川の自然河川だけではなく、木曽川の上流から下流までの風景や自然を再現した人工河川を備え、生物の生息環境の多様性を創り出している。オープン以来、公園利用者累計として5,483万人、プログラム参加者の累計として38万人を超え、多様なフィールドを最大限活用しながら事業を展開している。



河川環境楽園の全体



水辺の地形を活用したプログラムの様子（川の生きものさがし体験）

●環境教育プログラムで最も選ばれている内容（学校団体において）

○自然観察ビンゴ

（概要）その季節に観察される植物や小動物、五感で感じるものが書かれたビンゴシートに、草汁でしるしをつけながら自然を観察する。

（所要時間）1時間 （主な対象）小学校低学年～高学年 （雨天時）不適

（導入）五感をイメージするために「5つのちから」（視覚・嗅覚・聴覚・味覚・触覚）を紹介し、そのうちの1つの感覚を体験する。例）触覚、形の違う葉を3～4枚用意し、袋に1枚入れ触った感触でどの葉かを当てる活動

（展開）ビンゴシートにある自然物を、五感を使いながら見たり感じたりしビンゴになるように進める。

（まとめ）観察したもの、発見したものを共有する。視覚だけではない感覚を使って、身近な自然を観察することを促す。



室内にて、活動の「導入」



野外にて、活動の「展開」



室内にて、活動の「まとめ」

（最も選ばれている理由として考えられること）

- ・小学校低学年でも実施できること。
- ・同時に4クラス（最大160名）が同じ体験ができること。
- ・小学1～2年生の生活科の教科に「身近な自然を観察する」という単元があるため。
- ・公園がフィールドのため学校の校庭より、豊かな自然体験ができること。

（その他、環境教育プログラムの特徴）

- ・学校として選択しやすいように、教科書の単元とリンクした環境教育プログラムの情報提供をしている。（例として、「自然観察ビンゴ」は、小1生活科「こうていをたんけんしよう」に関連しています、など）

●河川環境楽園 自然発見館で実施している
主なイベント

○ネイチャーイベント

クラフト系や観察系、実験系など様々なテーマで、公園のフィールドと関連づけながら、一般家族を対象として年間を通じて実施。夏休みの自由研究など、サブテーマも設けながら季節を体感できる内容を展開。



○年会員イベント

1年間を通して、小学生向けの親子対象の「おさかなクラブ」「むしむしクラブ」「たんぼクラブ」の3種類から新たに親子で農体験を行う「楽農クラブ」を追加した。また、幼児向けの親子対象である「親子で森遊び～ポレポレタイム～」も展開し、どの年会員イベントも定員を大幅に上回る程の申込があり人気講座となっている。



「たんぼクラブ」でかかしづくりの様子

「楽農クラブ」で収穫の様子。

○「幼児」のためのプログラム

未就学児の親子を対象とし、「ぴちゃぴちゃ、ちゃっぷん!」「木と、なかよし」「ザリガニさん、コンニチハ!!」など、主に屋外での活動を取り入れることで、身近な自然物を活用した親子での自然体験活動を楽しみながら実践している。



幼児プログラムの「おちばであそぼ」の様子

○季節を感じる「歳時記」プログラム

七夕、そうめんづくりや「秋の彼岸、おはぎづくり」など、日本の四季や季節行事を、「食育」を取り込みながら季節感を体感するプログラムを開発している。



「七夕、そうめんづくり」の様子



「よもぎの不思議」の様子

●その他の取り組み

○自然発見館の環境教育ボランティア団体
(EE ネット発見館) への講座運営

環境教育施設である自然発見館に所属する EE ネット発見館のボランティアメンバーが行うプログラムの企画・運営のスキルアップのために「素材」をどう活用するかを参考に外部講師を呼ぶ講座(木育、お箸づくり)を行った。また、視察では琵琶湖博物館へ出向き、プログラム運営の手法を学ぶ講座をお手伝いした。



「琵琶湖博物館」での視察の様子



「琵琶湖博物館」での化石のレプリカづくりの様子

○地元 NPO との協働事業

地元を拠点に、小学校向けに環境活動を行う NPO 法人 e-plus 生涯学習研究所との協働事業により、公園をフィールドに水生昆虫観察や水質調査など、楽しみながら学ぶことができる内容を実施した。



木曾川水園での水生昆虫観察の様子



川の水を使った「水質調査」の様子

○国営公園、市、民間企業との3者協働事業の展開

市の生涯学習を担当する川島ライフデザインセンターと民間企業である養蜂業者(アピ株式会社)と自然発見館(環境教育を担当する当団体)の3者

が協働で7回の連続講座を実施。養蜂に関する不思議な蜂の生態などを知り、実体験として採蜜やはちみつの食べ比べなど行いながら、人間とミツバチ、植物の関係を理解する講座を実施した。



ミツバチ講座での「はちみつ」食べ比べの様子



ミツバチ講座での「採蜜」の様子

○木曾三川事業所として、外部事業への関わり

自然発見館がある各務原市のなかで、別の公園である「各務野自然遺産の森(市が管理)」の自然体験塾講座運営というソフト面での協力を行いながら、傾向と対策を行いながら集客にも意識した講座内容を企画、運営している。



「観察会」の様子



主に講座を実施する「自然体験塾」の外観